

同居人360度インタビュー

調査概要	おすすめポイント	利用シーン
調査対象者ならびに、日々一緒に生活している家族とのセットでインタビューを行う	<p><タイムレスな客観的事実の発見> 一緒に生活している家族ならではの時間・場所に制限されない視点から、よりリアルな対象者の行動や習性を取得。</p> <p><属性ギャップダイナミズム> 家族関与が高いテーマを、性差、年代差で同時に捉えることが可能。</p> <p><意識・行動の経年変化> 長年、一緒に生活している家族だから認識している、対象者本人も気づいていない行動・習性の変化を抽出。</p>	・新商品開発の潜在ニーズ探索 ・既存商品のブラッシュアップ ・商品使用者と代理購買者の相互ニーズ確認 等

■ ペアの組み合わせ例



親子仲は良いと思っている父親と年頃の娘

互いの健康に気を遣っているシニア夫婦



一見、仲睦まじい嫁姑

■ 実査フローのパターン例

【セットインタビュー→個別インタビュー】

①対象者と同居者の2人同時にインタビュー
最初から打ち解けている間柄であることから、相互作用効果（グループダイナミズム）もより早く、深く作用して、当該テーマに関する多くの発見が期待できる

②一定期間後に、同居者のみインタビュー
期間内の対象者の行動、発言の変化、2人でのインタビュー時の発言の真相、本当に言いたかったことなど、更に深まった事実、インサイトの抽出が期待できる。

その他に
対象者個人→セットインタビューの順で同じテーマのヒアリングを行い、対象者の発言ギャップ（家族がいない時/いる時）からのインサイト抽出を行うといったパターンも設定可能。